

稲葉健二のコラム



市民の方に長く愛されている市川市市民会館の大ホールが4月から利用停止になっています。ホールの天井が崩落する可能性があることが指摘され、利用者の安全を考えて使用停止です。他の施設である会議室、展示室などは現在も利用されています。

竣工から50年以上経っている建物なので、天井の改修を行うだけでなく、建物の耐震改修工事が必要であり、今後の使用年を考えると改修工事で対応することは得策ではないと考えられています。正式な方向性はまだ決まっていますが市民の方たちに利用しやすい施設に生まれ変わってほしいと個人的に思っています。

現在市川市は市庁舎建て替えに向けて検討をしています。多くの税金を使って災害に強い拠点づくりを進めるわけです。それは、市民の方たちのためにもなるからです。市民会館を建て替えるにも多額のお金が必要となります。多くの市民の方がいろいろな形で利用できる施設として考えていくことが大切であり、また、いざという時の拠点にもなると思います。行政の仕事は利得だけで進めるものではありません。だからと言って、税金を好き勝手に使うものでもありません。大切なのは市民の声をよく聞いて進めることです。

市議会報告

- 全国議長会在職10年表彰
市議会在職10年の表彰を全国市議会議長会から受けました。
- 市議会所属委員会の改選(2年毎に変わります)
健康福祉委員会委員になりました。(福祉部と子ども部と保健スポーツ部を所管します)
- 議会運営委員会委員長になりました。
議会の運営、会議規則、議長の諮問等を所管していく委員会です。
- 幼児教育振興審議会の委員に引き続きなりました。
- 土地開発公社理事に引き続きなりました。

ご意見・ご要望等お気軽にどうぞ!



市川市議会議員

稲葉健二の ひと言メッセージ

No.43

平成25年8月20日発行
稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

救急車の利用を考える。

以前の特集でも救急車の適正利用を取り上げました。救急車の後ろに適正利用のステッカーを貼り付けたり、市川市のケーブルテレビのマイタウンいちかわやインターネット放送局で「救急車を正しく使いましょう」と啓蒙し、消防局のホームページで「本当に救急車が必要ですか?」「救急車の正しい利用にご協力をお願いします」と広報しています。見たことがありますか?このような広報がなぜ必要かを考えてみると、本来救急車を必要としない方の利用が多いということです。救急業務経費は平成23年度で約8億2300万円です。1回の救急車の出動経費は約49,000円くらいといわれています。税金を払っているから使って当然というものでしょうか?1台が出動すれば、次に必要な人の時に違う場所から救急車を手配しなければなりませんし、時間もかかるかもしれません。本当に必要な方が使えないかもしれません。救急車を利用するなということではなく、タクシー代わりに利用したり、夜間診療の緊急性がない方の利用は考えて欲しいのです。平成24年の救急出動及び搬送人員は20,005件、18,076人です。その中で、疾病程度別に分類すると、軽症が50.19%、中等症が40.61%、重症が7.43%、死亡が1.77%です。この数字をみて、結果がそうだと思うかも知れませんが、救急車を利用して夜間診療を利用すると救急車も夜間診療のスタッフも出動に対応しなければなりません。軽症であっても同じ対応が必要です。自分の判断では難しければ、あんしんホットダイヤル0120-24-1596を利用して下さい。



稲葉健二の市政考察

現在の市政の課題を考えてみたいと思います。

○防犯灯の考え方

市内の防犯灯は市民の安全・防犯に重要な役割をはたしています。市川市は電気料金のほぼ100%と設置費用の90%を補助しています。市は数年前から電気料の安いLED灯への交換を推奨してきました。器具代が高いLED灯のために補助金の額も増やして対応をしてきました。本来、旧の電灯が壊れたときに、LED灯に切り替えを進めていきましたが、ここ二年間で予想以上の切り替えが進められ、予算を大きくオーバーして設置希望に対応できないこともあり、今年度の設置にあたり自治(町)会に設置のアンケート調査を行いました。過去二年間でLED灯は1676灯が設置されたのに対して、アンケートでは、1826灯、約1.2億円の設置要望がでました。東京電力の電気料が昨年から上がり、電気料金の補助金も不足して補正予算を組んで執行した状況です。新規設置要望に全て答えることは財政上難しいので、自治(町)会の規模やここ数年の実績で応分することになります。ご理解、ご協力をお願いします。



○再開発の考え方

7月に本八幡A地区市街地再開発の40階ターミナルタワーが竣工しました。同時に建設されていた京成電鉄本社ビルも9月に移転が予定され、今後は現在建設事務所があるあたりに商業棟の建設が始まることとなります。また、完全に工事が完了していませんが、国道14号線と県道市川・柏線(中央道り)の車線と歩道部が改善されます。ただし、ビル風の流れも大きく変わり、千葉銀行の前の14号線の風は強くなり、歩行者も警戒が必要と思います。今後有効な対策を地域全体でとれるような施策提案をしていきたいと思います。京成八幡駅から都営地下鉄本八幡駅の導線は京成八幡駅から地上1階までは本社ビルのエスカレーターやエレベーターで行けますが、地下の都営地下鉄本八幡駅には、直接行けないので、乗り換えて地下に降りることになります。体の不自由な方や乳幼児を連れて移動される方には便利とは言いづらいかもかもしれません。商業棟の完成も含め、再開発の完成までまだしばらくかかりますのでご理解・ご協力をお願いします。



○保育園待機児童の考え方

市川市の4月1日現在の待機児童数は336名です。一時減少しても、また増えていくのが現実です。毎年新設の保育園も開設し受け入れ人数は増えていますが、希望者が上回り、待機児童解消にはなっていません。横浜市が新しい施策を駆使し待機児を解消し、国も横浜方式と推奨していく方向に進みそうですが、市の規模や立地、財政状況なども含めて、同じ方式で全ての市が改善できるとは考えづらく思います。かといって、これから子どもたちが減っていくと予想されていくなか、1園つくって億単位の補助金、そして継続的な運営補助金が必要な保育園をつくっていくことが施策でしょうか？子育て三法の改正の方向性も見えづらい現在、今後どのような方向に向かっていくこともわかりづらいと思います。今ある、認可外保育園、私立幼稚園の延長保育、他の現在行われている施策の充実で対応できるところは進め、現在困っている方に早い対応をすることが重要だと考えます。短期的なもの、中長期的なものと同時に動かし、即応決定していくスタイルを目指して応援したいと思っています。

